

演劇ホール(アイホール)の活用検討について

日時 : 令和3年11月19日
18時30分～19時40分

場所 : 伊丹市立音楽ホール
(アイフォニックホール)

主催 : 伊丹市



1. 文化3館の状況 | 各館諸元



文化会館
(東リ いたみホール)

竣工	平成10年(1998年)年8月 【築22年】
構造	SRC造 地下1階 地上6階 (地下は駐車場)
延床面積	12,634㎡

建設費	7,468百万円
ホール	大ホール(975㎡) 1202席
その他貸室	中ホール, 多目的ホール 会議室大・1・2・3, 和室大・中・小 プレイルーム, 練習室1・2・3



音楽ホール
(アイフォニックホール)

竣工	平成3年(1991年)12月 【築29年】
構造	RC造 地下1階 地上3階 (地下は駐車場)
延床面積	4,179㎡

建設費	2,585百万円
ホール	メインホール(537㎡) 502席
その他貸室	小ホール1, 小ホール2 練習室1・2・3



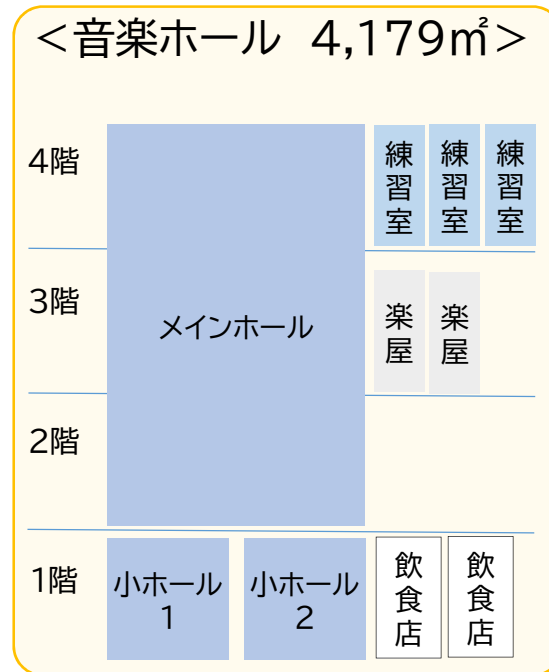
演劇ホール
(アイホール)

竣工	昭和63年(1988年)11月 【築32年】
構造	SRC造 地下1階 地上3階 (地下は駐車場)
延床面積	2,445㎡

建設費	1,246百万円
ホール	イベントホール(357㎡) 120~200席(最大300席)
その他貸室	カルチャールームA(90㎡) カルチャールームB(100㎡)

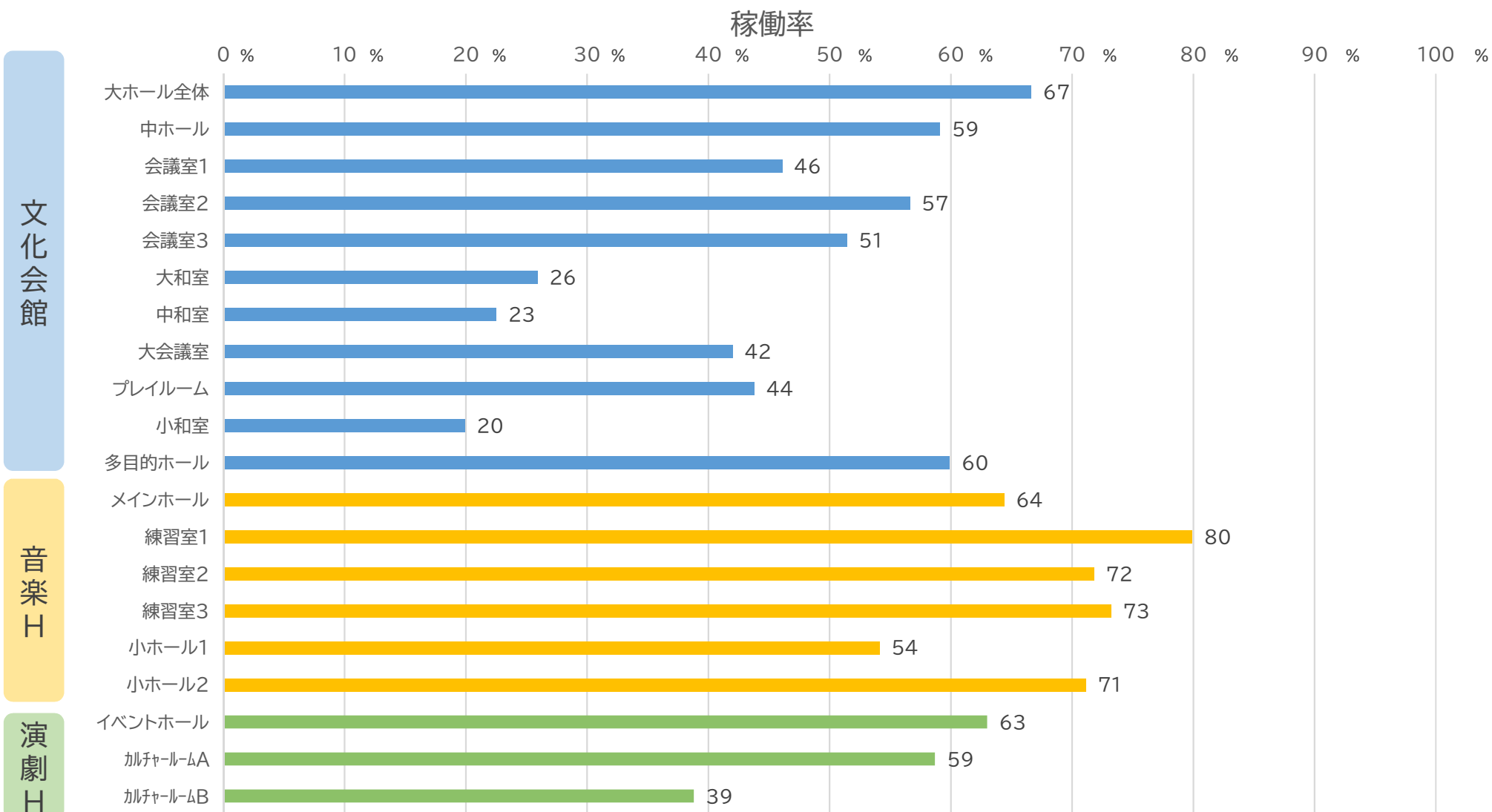


1. 文化3館の状況 | 各ホール断面図





1. 文化3館の状況 | 各ホールの稼働率比較 (平成30年度実績)

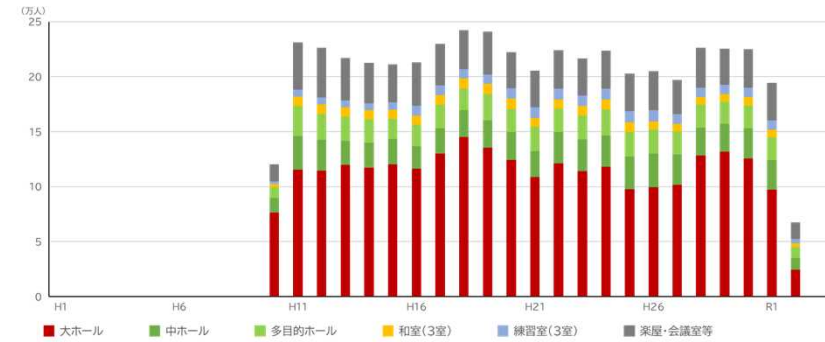


各ホールとも公演をする居室の稼働率は高い水準です。
(文化会館:大ホール・中ホール・多目的ホール 音楽ホール:メインホール・小ホール1,2 演劇ホール:イベントホール)



1. 文化3館の状況 | 利用者の推移と市民アンケート

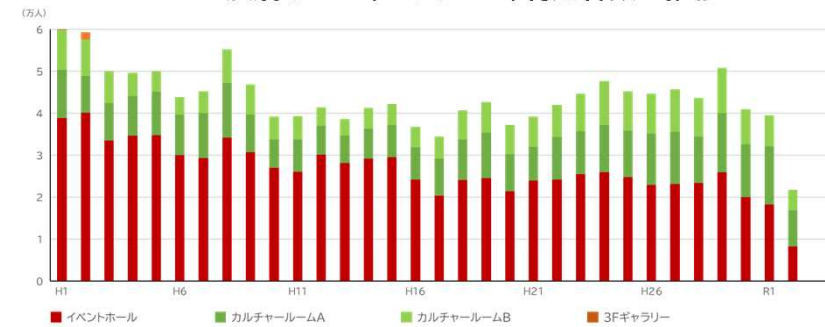
文化会館(東りいたみホール)利用者数の推移



音楽ホール(アイフォニックホール)利用者数の推移



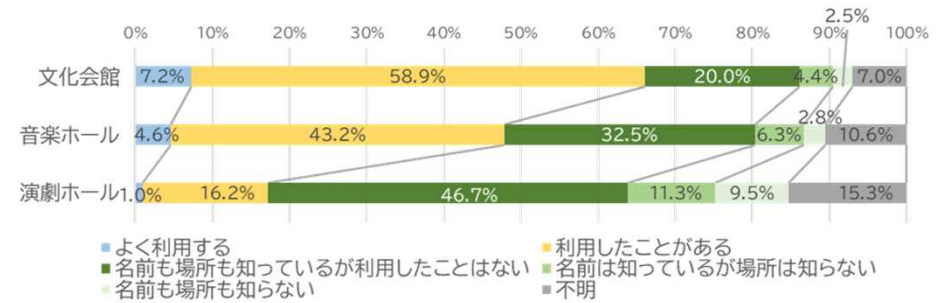
演劇ホール(アイホール)利用者数の推移



H24

公共施設のあり方に関する市民アンケート調査

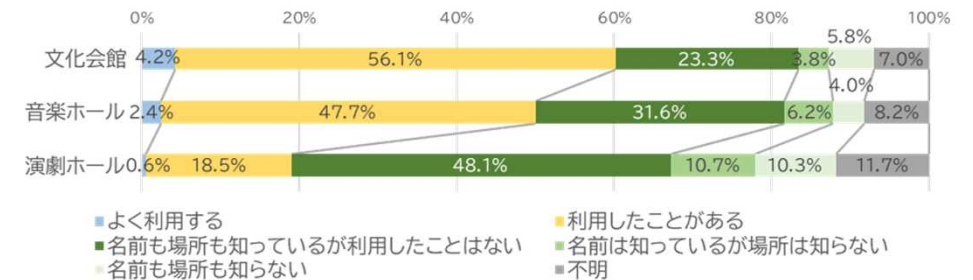
n=1,260



R3

公共施設のあり方に関する市民アンケート調査

n=503

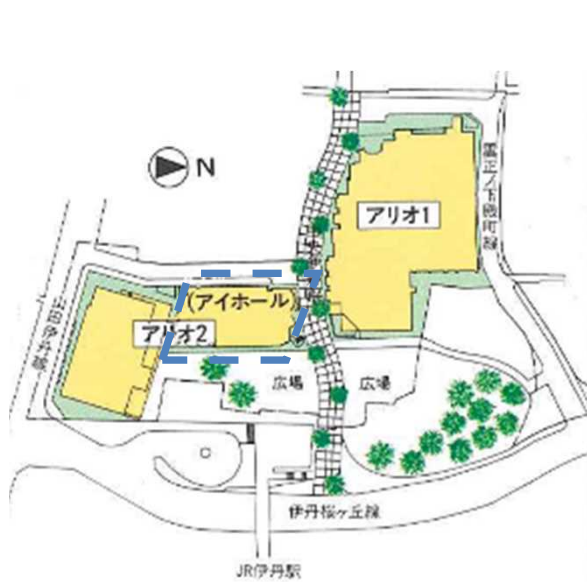


文化会館の大ホールと音楽ホールのメインホールの利用者数が安定している一方、演劇ホールのイベントホールの利用者数は減少傾向です。

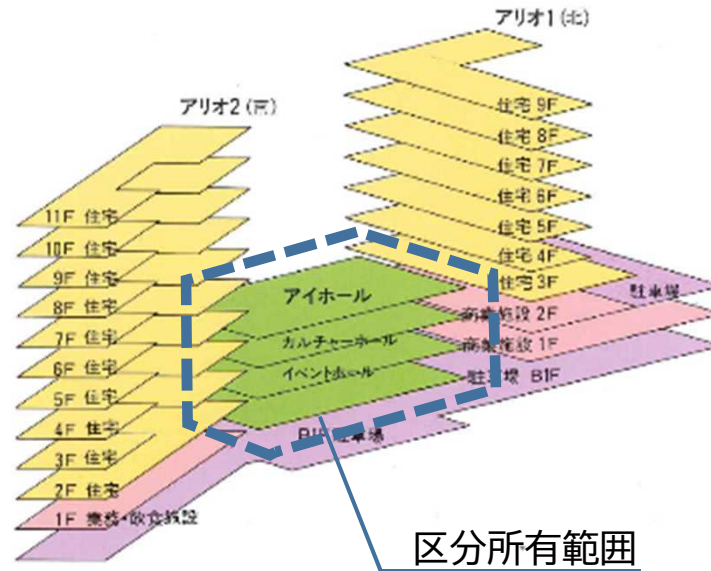
H24、R3実施の市民アンケート調査の結果ではいずれも、演劇ホールを「よく利用する」又は「利用したことがある」と回答した市民の割合は、他のホールと比較して低いです。



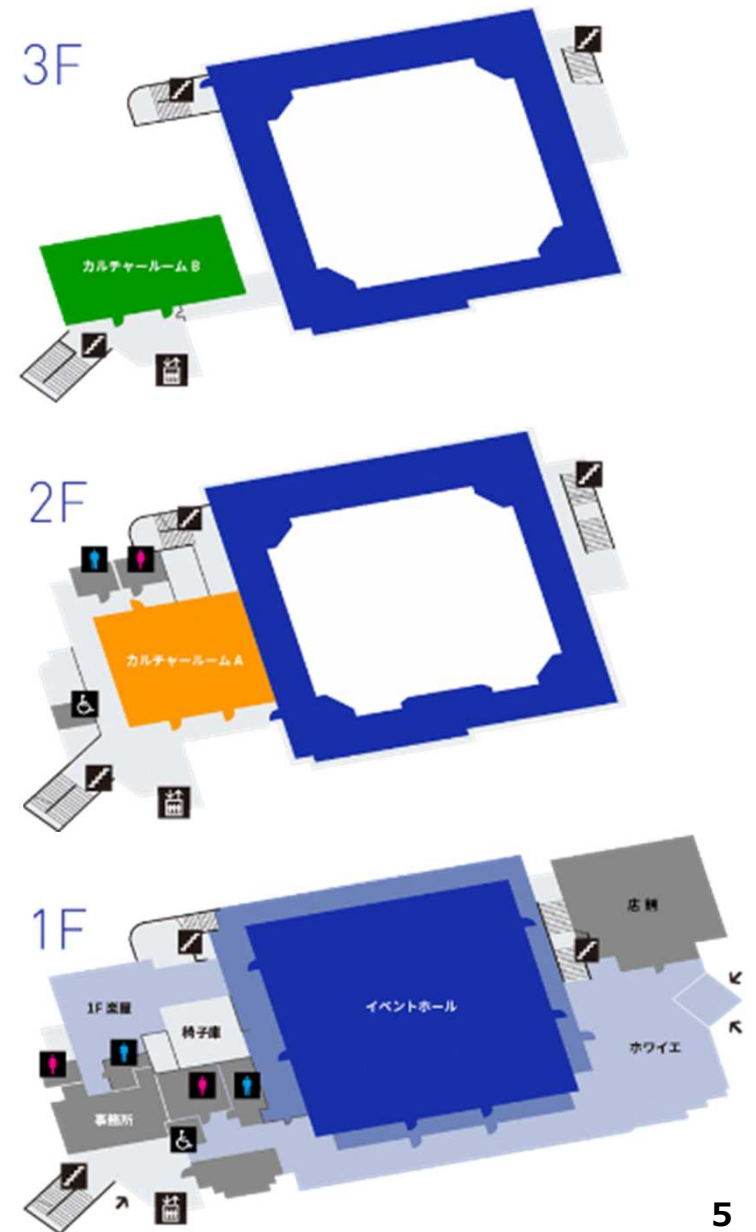
2. アイホール活用検討の経緯 | 演劇ホールの諸元



配置図



区分所有イメージ



演劇ホール(アイホール)は、国鉄伊丹駅前地区市街地再開発事業に関連して、にぎわいの創出を目的として昭和63年に設置された演劇専用ホールです。

アイホールと2棟の住宅棟は地下駐車場で連結されており、上図のように区分所有しています。

3層の吹き抜けのイベントホールは演劇やダンスの公演に適したホールです、35ブロックに分割された床のうち、31ブロックが昇降する可動床になっていて、舞台と客席を自由に設定できます。

また、2階と3階には、ダンスや合唱の練習に適したカルチャールームがあります。



2. アイホール活用検討の経緯 | 演劇事業の実績 (平成30年度)

伊丹市

■公演事業(抜粋)

公演	内容
「アイフェス!! 2019」	伊丹市内の中学高校演劇部による「演劇の祭典」。市立西中学校と市立伊丹高校が二年連続大賞受賞。
青年団『ソウル市民』/『ソウル市民1919』	平田オリザ初期代表作連続上演。日韓併合前後のソウルを舞台に「悪意なき市民たちの罪」を問う。
ITOプロジェクト 糸あやつり人形芝居『高丘親王航海記』	異能の文学者・澁澤龍彦の遺作となった幻想小説を、少年王者館の天野天街が糸あやつりの人形劇として舞台化。
エイチエムピー・シアターカンパニー 『忠臣蔵』	現代演劇のルーツを探るシリーズ第6弾。鶴屋南北『仮名手本忠臣蔵』を原作に現代劇として再構築。

全国で活躍する小劇団等を招聘し、質の高い演劇を提供。

観る演劇

参加人数

計9,951人

■講座事業(抜粋)

種別	内容
一般の方向けのワークショップ	土曜日のワークショップ・演劇ラボラトリー 空晴プロジェクト 等
未就学児～高校生 それぞれの年代向けのワークショップ	中学生のための演劇ワークショップ 等
教育現場へのアウトリーチ事業	東中学校・有岡小学校・荒牧中学校・笹原中学校
その他講座・人材育成	伊丹想流劇塾マスターコース・世界演劇講座 等

体験する演劇

参加人数

計2,453人

演劇ホール(イベントホール)で演劇を楽しんだ人は、約1万人です。
アウトリーチ等で「場所」にとらわれない演劇事業を体験した人は約2,500人です。



2. アイホール活用検討の経緯 | 高い評価を受ける演劇事業

・JAFRAアワード(総務大臣賞)受賞 (平成17年)

※地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰

・アイホールでは、高い評価を受けた作品を公演してきました

アイホール公演事業 主な受賞歴

	受賞	劇団	演目
平成10年度	第42回 岸田国土戯曲賞	桃園会	うちやまつり
平成21年度	第64回 文化庁芸術祭賞 優秀賞	MONO+AI・HALL共同製作	チェーホフを待ちながら
平成26年度	第69回 文化庁芸術祭賞 優秀賞	劇団太陽族	それからの遠い国
平成26年度	第69回 文化庁芸術祭賞 新人賞	エイチエムピースアターカンパニー	アラビアの夜(演出)
令和元年度	第74回 文化庁芸術祭賞 優秀賞	万博設計	リボルバー
令和元年度	第74回 文化庁芸術祭賞 新人賞	エイチエムピースアターカンパニー	忠臣蔵・破 エートス/死(脚本)

<演劇ホールのこれまで>

大きく2つの事業を展開

●市民の自由な創造活動を促進するための事業

●舞台芸術の振興と普及に寄与するための事業



具体的には

- ・著名な劇団やカンパニーの招聘
- ・若手表現者への公演機会の提供
- ・時代を画した劇創作、子ども向け演劇作品制作などの公演事業
- ・小中高校生向けの演劇ワークショップ
- ・市内中高演劇部を対象にしたフェスティバル
- ・戯曲講座や演劇実践講座
- ・教育現場へのアウトリーチ事業
- ・地域に根差した舞台芸術体験事業



2. アイホール活用検討の経緯 | 演劇ホールの課題

伊丹市

市民利用率

約**15%**

演劇鑑賞又は演劇講座に参加した
市民は**1800**名程度にとどまる

指定管理料(年間)

約**9000**万円

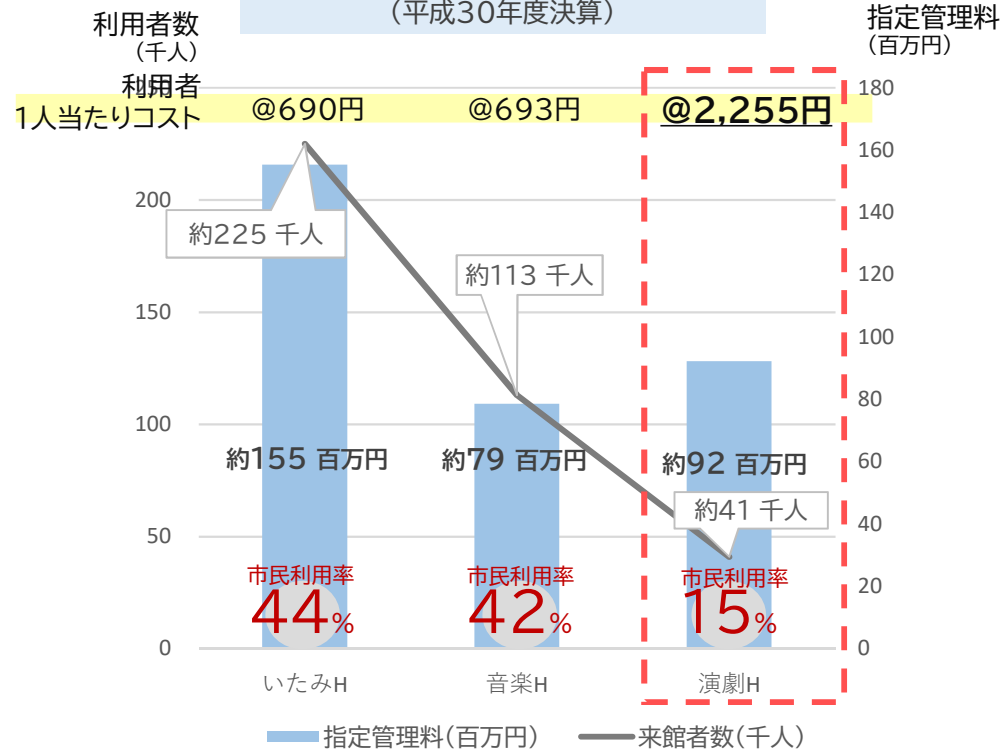
1人当りのサービスコストは、
他のホールの約**3**倍

老朽化

築**32**年

設備改修費用約**4**億円

文化3館の指定管理料と利用者数
(平成30年度決算)



収支の状況
(指定管理施設管理運営状況報告書より) (単位:千円)

区分		平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	
収入	使用料収入	9,685	8,498	7,789	
	事業収入	14,901	8,837	10,389	
	その他	18,690	17,452	14,641	
	指定管理委託料	90,826	92,227	89,465	
	①合計	134,102	127,014	122,284	
支出	維持管理	光熱水費	13,498	11,950	12,229
		清掃等委託料	21,678	21,784	22,080
		土地建物賃料	0	0	0
		修繕費	1,815	2,543	2,327
	運営	人件費	42,620	44,195	44,785
		事業等経費	42,869	37,387	31,201
		その他	6,931	6,377	6,661
		指定管理納付金	0	0	0
	②合計	129,411	124,236	119,283	
	純収支(①-②)		4,691	2,778	3,001

築32年を経過し設備等が老朽化しています。新たな設備投資のタイミングを契機に検討を開始しました。

検討①

演劇事業の継続も含めた用途について
サウンディング調査を実施

検討②

演劇事業のあり方を検討

検討③

文化3館のあり方を検討



3. サウンディング調査 | 経過概要

国土交通省主催

平成30年度

条件

演劇を中心とした文化活動の場としての可能性について

参加企業

1社

平成30年9月27日実施

意見

- ・減免率が非常に高い。
- ・安価に利用させている。

助言

- ・今の演劇事業のまま、民間事業者が参画するのは困難。
- ・演劇事業に限らず調査をしてみてもどうか。

令和2年度

条件

演劇にとらわれない用途の変更の可能性について

参加企業

5社

令和3年2月2日実施

意見

- ・最高の立地を活かせていない。
- ・費用対効果が悪い。
- ・(市民)ニーズとの不一致。

助言

- ・アクセスの良さを活かし、多くの利用者が見込めるコンテンツを配置してはどうか。
- ・「スポーツ・子ども・居場所」をキーワードに新たな行政的サービスを検討してみてもどうか。
- ・演劇事業は場所・規模共に見直しをすべきではないか。

伊丹市実施

令和3年度

条件

芸術文化・スポーツ関連事業への用途の変更について

参加企業

5社

令和3年8月2日～6日実施

事業内容

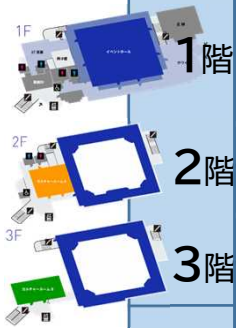
- ・屋内アスレチック施設とワーキングスペース
- ・幅広い年齢層が楽しめるクライミング・アスレチック施設
- ・演劇ホールと連動したライブラリーカフェを主軸としたフリースペース
- ・“知”の空間づくり(図書をキーワードとした子育て・コミュニティ施設)
- ・ストリートカルチャー体験空間(ダンス・BMX・スケートボード・ダブルダッチ・クライミング等)

市内事業者・施設運営会社・展示事業者等

R3.8～10月に個別協議をすすめた結果、3つの事業が現在提案されています。



3. サウンディング調査 | 提案プランの比較



	A者	B者	C者																																					
スキーム	建物貸付(独立採算) 施設を民間事業者に貸し付ける 民間事業 として提案	指定管理 公共施設として行う 市の事業 として提案	指定管理 公共施設として行う 市の事業 として提案																																					
1階	クライミングアスレチック カフェ	屋内アスレチック ワーキングスペース	ストリートカルチャー ショップ																																					
2階	貸室・スタジオ	貸室	貸室																																					
3階	貸室・スタジオ	貸室・スタジオ	貸室																																					
料金・利用者数	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">遊具施設 (イベントホール)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般利用 (1.5時間)</td> <td>平日/土日祝</td> <td>1,200円/1,800円</td> </tr> <tr> <td>会員利用 (1.5時間)</td> <td>平日/土日祝</td> <td>1,000円/1,500円</td> </tr> <tr> <td>登録料</td> <td></td> <td>500円</td> </tr> <tr> <td>延長料金 (1時間)</td> <td></td> <td>500円</td> </tr> <tr> <td>付添料金</td> <td></td> <td>300円</td> </tr> <tr> <td>フリードリンク</td> <td></td> <td>300円</td> </tr> </tbody> </table>	遊具施設 (イベントホール)			一般利用 (1.5時間)	平日/土日祝	1,200円/1,800円	会員利用 (1.5時間)	平日/土日祝	1,000円/1,500円	登録料		500円	延長料金 (1時間)		500円	付添料金		300円	フリードリンク		300円	<table border="1"> <tbody> <tr> <td rowspan="4">屋内アスレチック</td> <td>大人</td> <td>500円</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>300円</td> </tr> <tr> <td>年間パス (大人)</td> <td>25,000円</td> </tr> <tr> <td>年間パス (子ども)</td> <td>10,000円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コワーキング</td> <td>月額会員</td> <td>12,000円/月</td> </tr> <tr> <td>ドロップイン利用</td> <td>1,500円/日</td> </tr> </tbody> </table>	屋内アスレチック	大人	500円	子ども	300円	年間パス (大人)	25,000円	年間パス (子ども)	10,000円	コワーキング	月額会員	12,000円/月	ドロップイン利用	1,500円/日	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>ストリートカルチャーエリア ・スケートボードパーク ・BMX</td> <td>2,000円</td> </tr> </tbody> </table>	ストリートカルチャーエリア ・スケートボードパーク ・BMX	2,000円
	遊具施設 (イベントホール)																																							
一般利用 (1.5時間)	平日/土日祝	1,200円/1,800円																																						
会員利用 (1.5時間)	平日/土日祝	1,000円/1,500円																																						
登録料		500円																																						
延長料金 (1時間)		500円																																						
付添料金		300円																																						
フリードリンク		300円																																						
屋内アスレチック	大人	500円																																						
	子ども	300円																																						
	年間パス (大人)	25,000円																																						
	年間パス (子ども)	10,000円																																						
コワーキング	月額会員	12,000円/月																																						
	ドロップイン利用	1,500円/日																																						
ストリートカルチャーエリア ・スケートボードパーク ・BMX	2,000円																																							
	7万人/年間	12万人/年間	4万人/年間																																					
コスト	建設費 (民間の投資) 一億円 運営費 ▲0.4千万円/年 (施設の賃料として市へ納付) 10年間のトータルコスト ▲0.4億円	建設費 2.2億円 運営費 3.0千万円/年 10年間のトータルコスト 5.2億円	建設費 0.5億円 運営費 3.6千万円/年 10年間のトータルコスト 4.1億円																																					

令和3年度に実施したサウンディング型市場調査では上記のような提案を頂き、演劇ホールの用途変更に関する可能性が示されました。



4. 演劇事業のあり方検討 | アイホールの存続を望む署名

令和3年8月30日(月)に演劇関係者の団体らからアイホールの存続を求める市外在住者を含む約8000件の署名が提出されました。

<提出先>

- ・伊丹市長
- ・伊丹市議会議長

<提出団体>

- ・アイホールの存続を望む会
- ・伊丹市内中学高校演劇部OBOG会
- ・市民とアイホールのことを考える実行委員会

<要望事項>

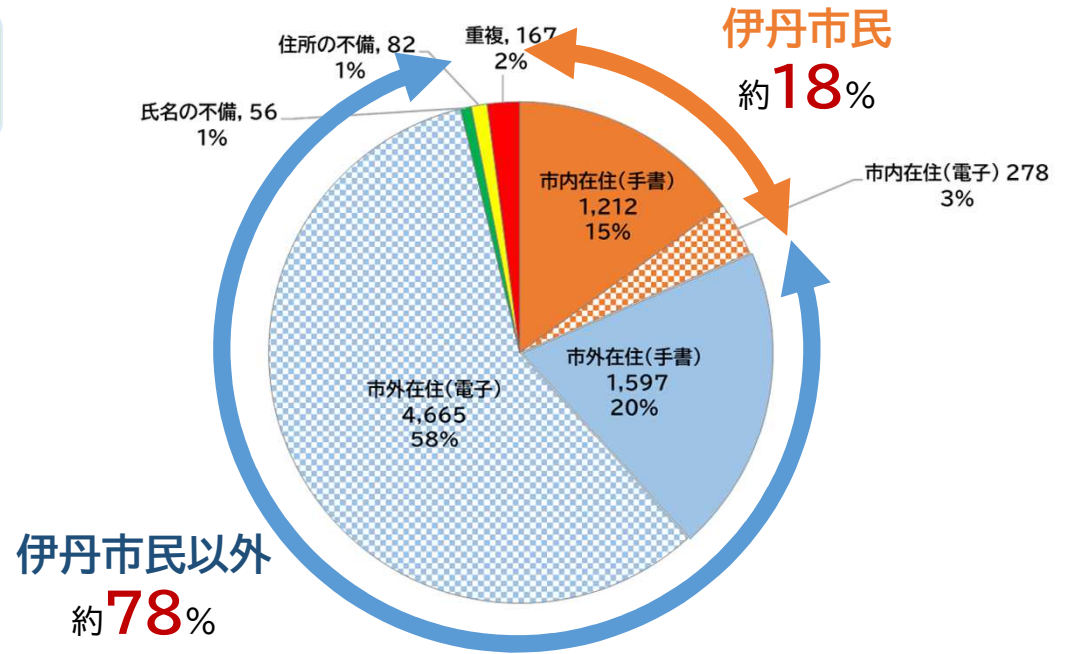
(1)手書き署名

- ・ 市民にもっと丁寧に説明してください。
- ・ 伊丹市立演劇ホール(アイホール)の存続を望んでいます。当事者の言葉を聞いて、計画を練り直してください。
- ・ 市民の間で十分な議論ができるよう時間をかけて検討してください。
- ・ 私たちは、伊丹市演劇ホール(アイホール)の存続を強く望みます。文化的で豊かな人間性を育む役割を担う公共財としての施設だからこそ、採算性や経済効率のみでその存在を判断しないでください。

(2)電子署名

伊丹市立演劇ホール(アイホール)を存続させよう！

<署名を求めるチラシ>



内容	件数	割合	備考
市内在住(手書)	1,212	15%	
市内在住(電子)	278	3%	
市外在住(手書)	1,597	20%	
市外在住(電子)	4,670	58%	
氏名の不備	51	1%	イニシャル、名字だけ、氏名以外の記載
住所の不備	82	1%	住所空欄かつ郵便番号空欄
重複	167	2%	※
合計	8,057	100%	割合は四捨五入により必ずしも100%になりません

※「同一名」かつ「同一住所地(ほぼ同一とみなされるものを含む)」については、同一とみなす11



4. 演劇事業のあり方検討 | アイホール活用に関する市民意識調査

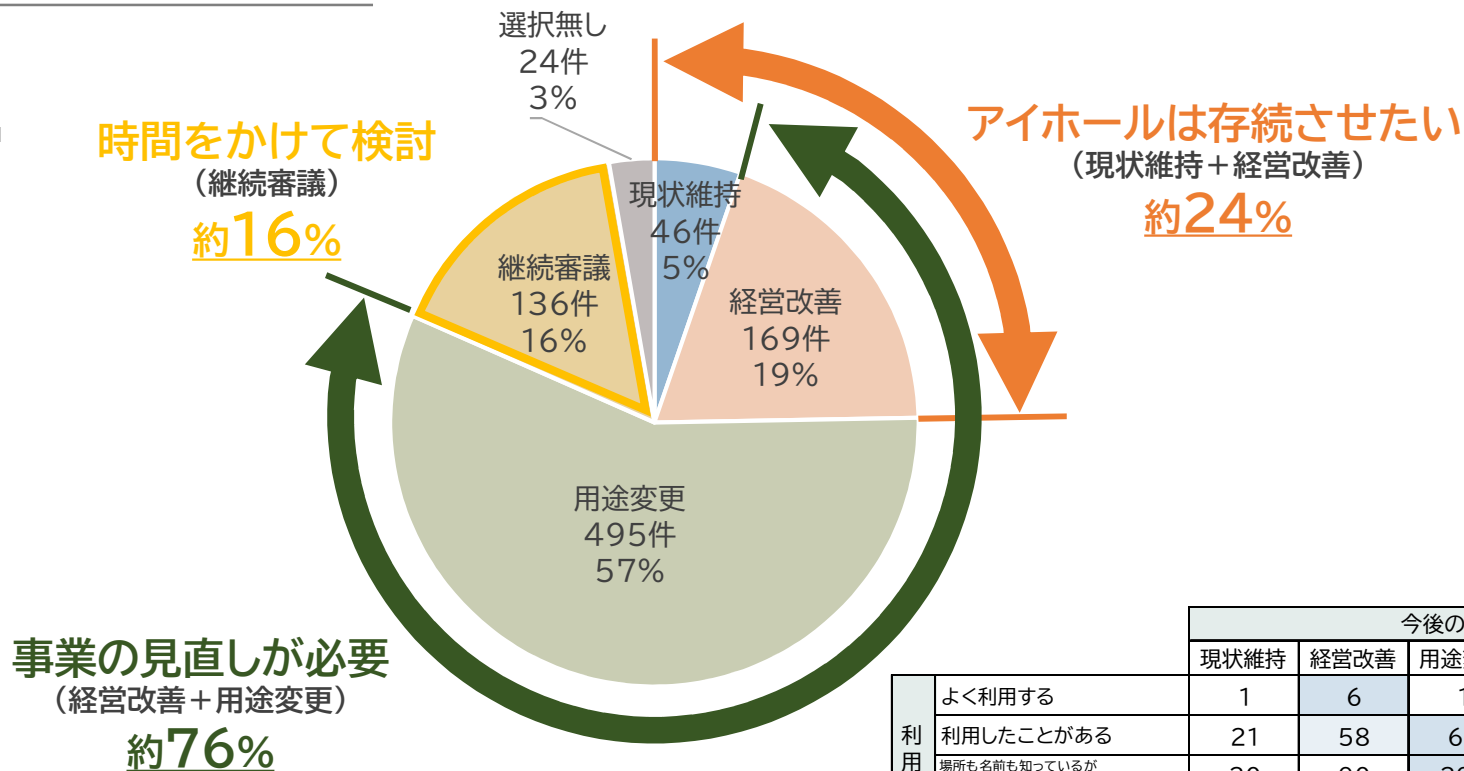
調査概要 (住民基本台帳から満18歳以上の3030人を抽出)

調査数	3,019件	不達11通を除く
回答数	870件	(回答率28.8%)
回答方法	インターネット・電話	

現状維持…演劇事業をアイホールで継続すべき(現在と同じ水準)
 経営改善…演劇事業をアイホールで継続すべき(運営費・改修費を見直し)
 用途変更…アイホールは新たな市民サービスの場として活用すべき(演劇事業は他のホール等公共施設で実施)
 継続審議…アイホールのあり方について対話をして検討を継続すべき(現状の運営を維持)

設問内容

- 問1 年齢
- 問2 利用頻度
- 問3 利用の目的
- 問4 利用した居室
- 問5 今後のあり方



アイホールの存続や演劇事業の継続を考える方(現状維持+経営改善)が約24%
 事業の見直しを考える方(経営改善+用途変更)が約76%です。



4. 演劇事業のあり方検討 | 中高演劇部へのヒアリング

■ 伊丹市内演劇部(中学・高校) 在籍学生の意見

アイホールのいいところは？
どんな講座を受けたい？
どんな施設や機能があったらいい？

市立西中学校	1～3年生	28名
市立南中学校	1～3年生	15名
市立松崎中学校	1～3年生	19名

- ・アイホールは照明や音響装置を舞台が見える場所で操作できる。
- ・いたみホールも音楽ホールも残響が高いので演劇に向いていない。
- ・夏のワークショップは他校生との交流があって非常に刺激的で良い。互いに協力し、情報交換する中で新しいものを発見できるので今後も継続して欲しい。
- ・アイフェスでは、専門のスタッフが自分たちのしたい表現を叶えるために様々な提案をしてくれる。
- ・アイホールは自転車で行ける距離なのでとても助かる。
- ・ピッコロシアターは大きすぎて声を張り上げないといけない。アイホールの大きさだと無理なく演じることができる。
- ・プロの技術スタッフから学べる機会は貴重。今後も続けてほしい。

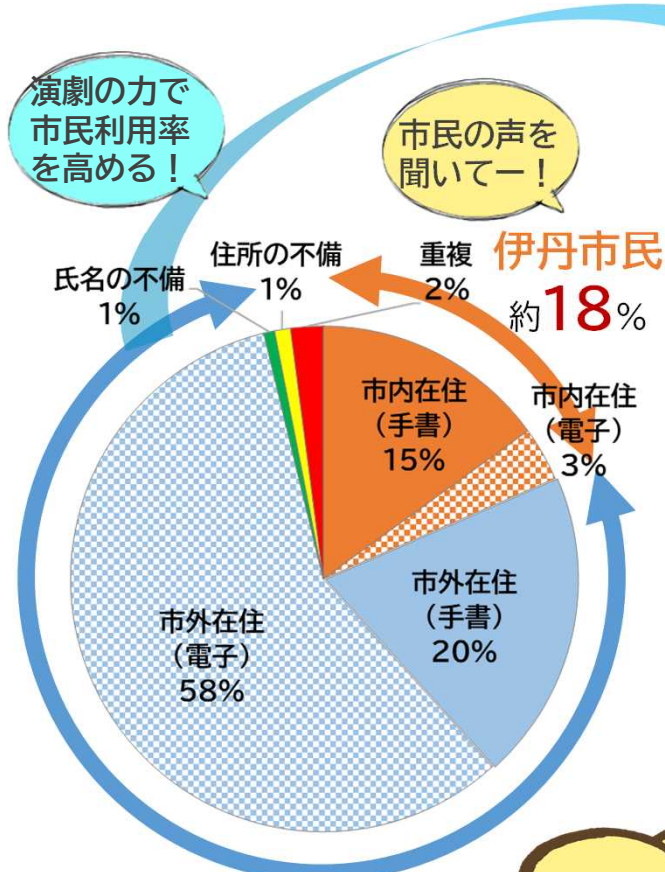
市立伊丹高等学校	(未了)	
県立伊丹高等学校	1・2年生	6名
県立伊丹北高等学校	1・2年生	11名
県立伊丹西高等学校	1年生	3名

- ・夏のアイホールのワークショップは、経験豊かな指導者に教えてもらうので貴重。
- ・アイホールは観客との距離感が近く、目がよく合い、適度な緊張感がある。
- ・演劇を通じて自己表現でき、評価される場所さえあればいい。
- ・アイフェスには、アイホールでもキャパが足りない。ピッコロが最適。
- ・アイフェスの際に、とことん相談に乗ってくれる。
- ・アイフェスは、専門スタッフとのやりとりが貴重な体験。
- ・専門的な知見を得られる場所・機会は残してほしい。
- ・アイホールはワークショップが充実している。プロのスタッフによる指導が感動的。
- ・アイフェスは他校との交流の機会となることも刺激的。
- ・アイフェスに向けた稽古でも、提案打ち合わせがピッコロシアターよりも時間も長く、充実しているので継続してほしい。



4. 演劇事業のあり方検討 | 課題に対する解決方策

約8000名の署名



市民利用率

約15%

演劇鑑賞又は演劇講座に参加した市民は**1800**名程度にとどまる

多額の指定管理料

約9000万円

1人当りのサービスコストは、他のホールの約**3**倍

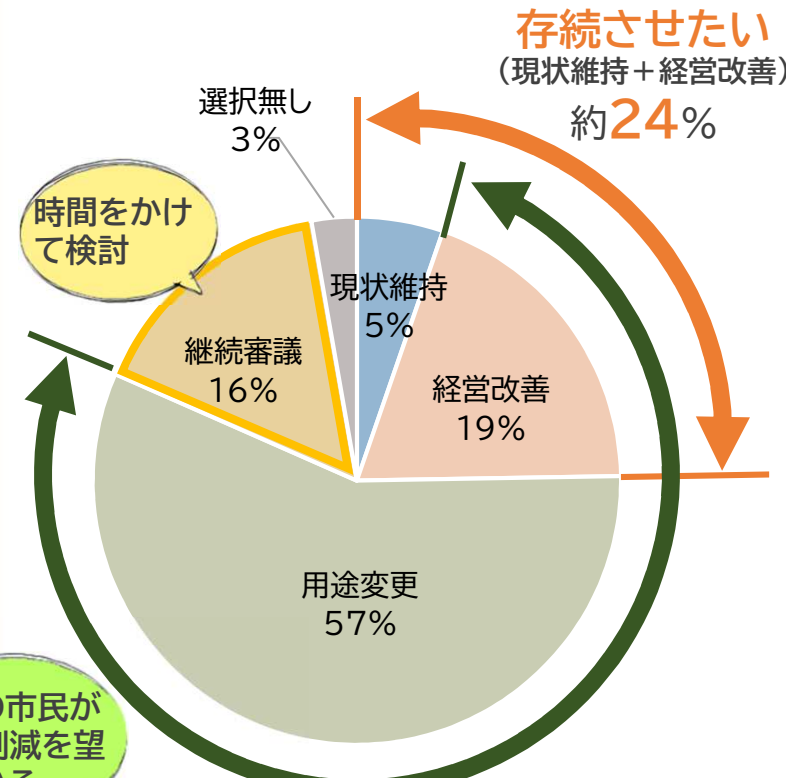
老朽化

築32年

舞台設備改修費用約**4**億円

市民意識調査の結果

(アンケート)



継続させたい
(現状維持+経営改善)
約24%

事業の見直しが必要
(経営改善+用途変更)
約76%

多くの市民が経費削減を望んでいる

舞台設備が今すぐ壊れる訳ではない

- 市民利用率は演劇団体の力で向上させる
- 指定管理委託料は経営改善で経費削減
- 追加の設備投資は当面の間、凍結



それぞれの課題に対応しつつ
演劇事業を当面の間継続。用途変更についても引き続き検討。



4. 演劇事業のあり方検討 | 演劇事業の基本的な考え方

伊丹市の文化振興施策にかかる指針に基づき、演劇事業の継続を考えます

基本方針①

文化芸術が身近にあるまちを目指します

基本方針③

市民の主体的な文化活動を支援します

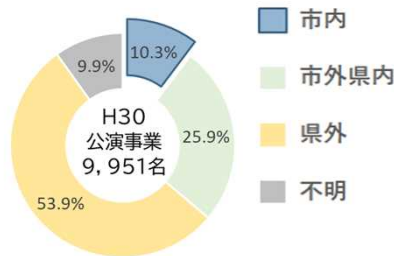
基本方針②

人と人がつながる場所として文化施設を活用します

基本方針④

賑わいづくり、伊丹ブランド構築の一翼を担います

公演



鑑賞

目的

演劇にふれる機会をつくります

方針
③

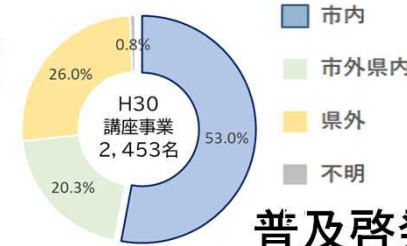


現代演劇レトロスペクティブ『丈夫な教室』
撮影:堀川高志

現状

市民利用は少ない
演劇界からはニーズが高い

講座



※グラフは平成30年度利用者アンケートにおける利用者の居住地

人材育成

目的

演劇の担い手を育てます

方針
②



伊丹想流劇塾

現状

市内へ十分に還元できていない

普及啓発

目的

演劇の力でまちの魅力につなげます

方針
①・④



いたみまちなか劇場

現状

地域連携や学校へのアウトリーチなどが評価されている

見直し

(市の役割) 経営改善を行った上で演劇としての実践の場(アイホール)を提供

(アイフェスとそれに係る関連事業は引き続き市で実施)

(演劇界の役割) アイホールを活用した事業の展開・演劇の普及啓発

(受益者負担の適正化)

(様々な団体が利用することにより、利用率を向上)



4. 演劇事業のあり方検討 | 演劇界への働きかけ

検討②

演劇事業のあり方検討
伊丹市



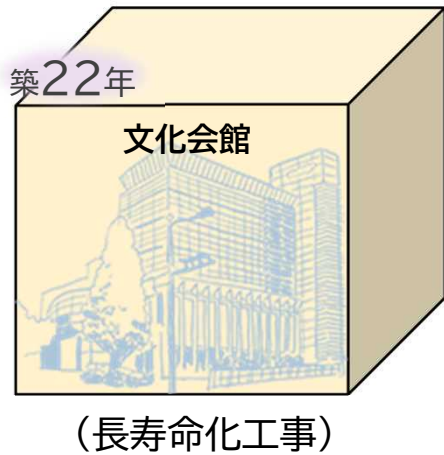
平田氏が主宰する青年団が保有する江原河畔劇場を視察させて頂きました。

県立芸術文化観光専門職大学の平田オリザ学長と藤原市長が面談。
アイホールの後について意見交換し、今後の運営に協力を求めました。

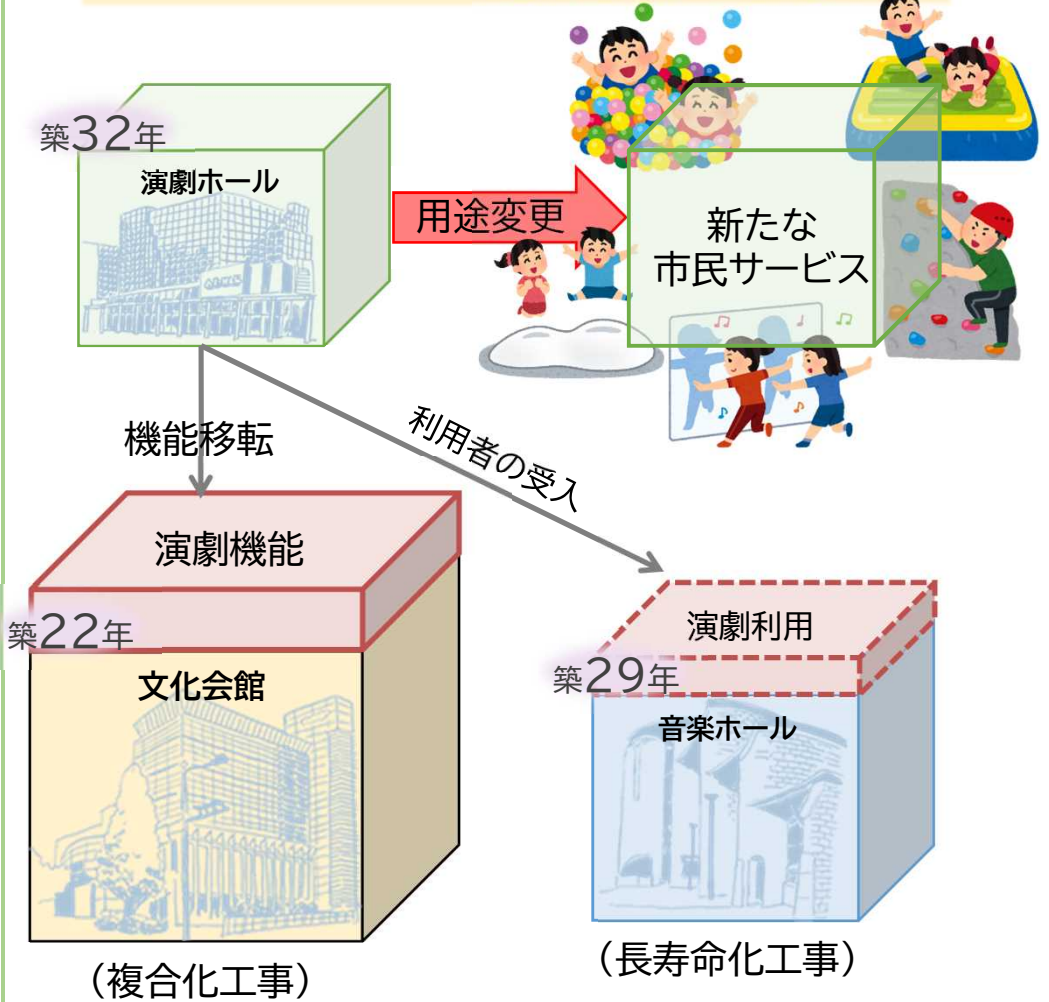


5. 文化3館のあり方検討

①アイホールの経営改善
+各施設長寿命化プラン



②アイホールの用途変更
+演劇機能移転による複合化長寿命化工事プラン



アイホールの用途変更に伴う文化3館のあり方については引き続き検討します。



6. 今後の演劇ホールの考え方

伊丹市

現状と課題

市民利用率

約 **15%**

演劇鑑賞又は演劇講座に参加した市民は **1800** 名程度にとどまる

多額の指定管理料

約 **9000** 万円

1人当りのサービスコストは、他のホールの約 **3** 倍

老朽化

築 **32** 年

舞台設備改修費用約 **4** 億円

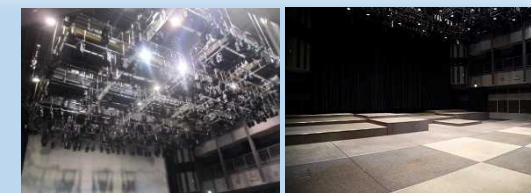
当面の対策



演劇関係者の協力により
市民参加の促進、市民利用率の向上

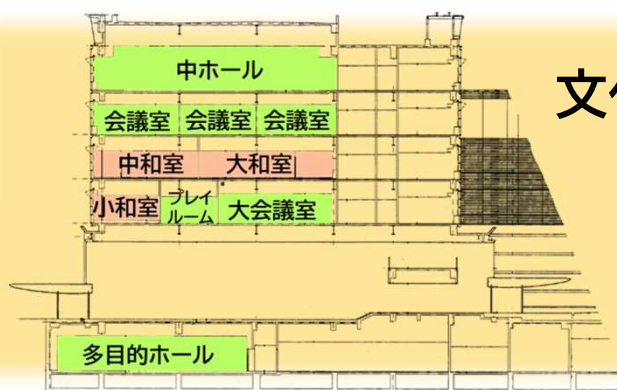


・演劇事業の見直し
・受益者負担の見直し

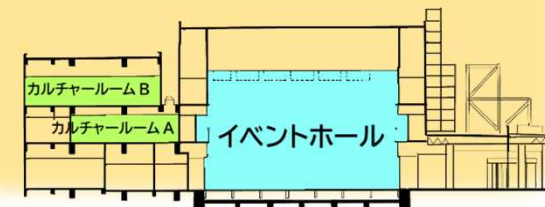
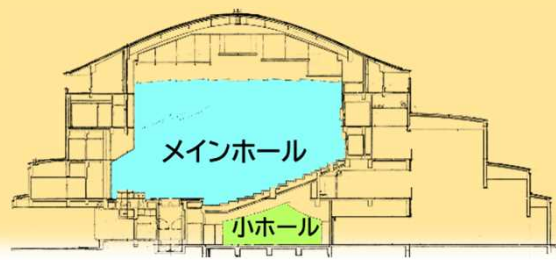


・舞台装置改修の凍結
・改修内容の見直し

基本的な考え



文化3施設全体で文化事業を考えます



文化3館(文化会館・音楽ホール・演劇ホール)の、より良い施設の活用方法について市民の皆様のご意見を伺いながら継続して検討します。